



TOEIC®テスト初級者のための リスニング・セクションパート2 攻略法

—ETS 作成問題の分析を通して—

井 上 治

概要 本論では、ETS が作成した問題を分析しながら、TOEIC 初級者のためのリスニング・セクションパート2 攻略法を考察する。「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聴き取れば正解できる問題がある。」という有効な攻略法と、「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢は100%不正解である。」という攻略法を組み合わせると、初級者が目標とすべき正答率のほぼ5割に達する。そして、この2つの攻略法に、「質問文の『内容語』と音声面に関連のある語を含む選択肢は、90%が『ひっかけ選択肢』である。」という最も効果的な攻略法を組み合わせると、理論上、目標の正答率をクリアできる。

キーワード TOEIC®テスト, リスニング・セクションパート2, 初級者, wh 疑問文, ひっかけ選択肢

原稿受理日 2007年1月15日

Abstract The purpose of this paper is to consider some strategies for TOEIC® test beginners for dealing with its Listening Section Part II established through analyzing the ETS questions. The first effective strategy is that, if only we can catch the interrogatives of wh-questions, we can answer many questions in this part of the test. The second is that all responses which begin with “Yes” or “No” to wh-questions are distractors. When TOEIC beginners use these two strategies, their correct answer rate in this part reaches almost half of their target. The last, but most effective, strategy is that responses which include words which are phonetically-related to “content words” in each question sentence, have a 90 percent probability of being “tricky” distractors. When beginners use these three strategies, their correct answer rate reaches and exceeds their target, in theory.

Key words TOEIC®, Listening Section Part II, Beginners, Wh-questions, “Tricky” distractors

1. はじめに

TOEIC®テスト（以下、TOEIC）を日本で運営・実施している、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会の TOEIC 運営委員会が2005年に発表したデータによると、IP テスト（団体特別受験制度）における大学1年生の平均スコアは387点（リスニング222点、リーディング165点）、大学4年生の平均スコアは492点（リスニング277点、リーディング215点）、公開テストにおける大学生の平均スコアは545点（リスニング300点、リーディング245点）となっている（DATA & ANALYSIS, 8）。そして、TOEIC を開発・制作している Educational Testing Service（以下、ETS）による検証結果から作成された Proficiency Scale（TOEIC スコアとコミュニケーション能力レベルとの相関表）によると、220点から470点までは「通常会話で最低限のコミュニケーションができる」Dレベル、470点から730点までは「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」Cレベルとされる（TOEIC® STYLE BOOK, 17）。

この2つのデータから、大学生のほとんどは、TOEIC 初級者ないしは初級者から移行して中級者の仲間入りをする段階にあるということになる。ところが実際には、387点取得という「TOEIC 中級者に移行できるレベルの初級者」になることは、容易なことではない。なぜならば、データによると、教育機関（大学生がその約70%を占める）が受験した IP テストにおいて、実に約半数の48.66%の受験者が395点以下だからである（DATA & ANALYSIS, 4）。いっぽう、公開テストでは395点以下の受験者は全体の約15.9%（DATA & ANALYSIS, 2）である。この数値の差は、公開テストの TOEIC 初級者は、TOEIC の問題形式や出題パターンなどを十分知ったうえで受験しているいわば「熟練した TOEIC 初級者」であることがわかる。これは裏を返せば、TOEIC 初級者が十分な準備をせずに受験すると、387点に遠く届かないどころか、「コミュニケーションができるまでに至っていない」Eレベルとされる220点以下にもなり得ることを意味している。

それでは、リスニングで4つ、リーディングで3つあるそれぞれのパートでどれぐらい正解すれば、387点、492点、545点というスコアを獲得できるのでしょうか。筆者が知る限り、TOEIC 運営委員会はその数字を公表していないが、TOEIC の生みの親のひとりで、TOEIC の日本での普及に努めた三枝幸夫氏が論文のなかで、TOEIC 運営委員会から提供された資料を基にして、400点から100点刻みで900点までのパートごとの正答率を出している。それによると、400点では、リスニング（パート1—61%、2—51%、3—32%、4—

33%), リーディング (パート 5—53%, 6—48%, 7—41%), 500点では, リスニング (パート 1—73%, 2—59%, 3—39%, 4—40%), リーディング (パート 5—63%, 6—53%, 7—51%) となっている (Saegusa, 138)。

本論では, TOEIC テスト初級者のためのリスニング・セクション パート2 攻略法を取り上げるので, 51%, 59%という正答率を目標に論じていくことになる。この三枝氏のデータは, 現在の TOEIC 年間受検者の5分の1の時代のものなので, 少し古いかもしれないが, 実際の受検者のデータを基にしているという点で唯一信頼できるものなので, この数値を使用する。もちろん, 2006年5月の公開テストから問題形式がリニューアルされ, 初級者がスコアをかせぎやすいパート1の問題数が20問から10問に, スコアをかせぎづらいパート4が20問から30問になったので, パート2の正答率は5%上乘せした56%, 64%ぐらいで考えなければならないだろう。

では最後に, リスニングのパート2を取り上げる理由を述べておきたい。一点目は, 大学生の平均スコアでみたように, リスニングのスコアがリーディングよりも60点ほど高いことである。これに関しては, 公開テストの全体の平均スコアでもリスニング312点, リーディング254点と同様の結果となっている (DATA & ANALYSIS, 2)。このように, TOEIC のリスニングはリーディングより難しそうと考えられがちだが, 初級者にとってはむしろリスニングに力を入れるほうが, スコアを伸ばしやすいのである。

次に, リスニングのパート1・2とパート3・4を比較した場合, まとまった長い会話や文章を聴くパート3・4より, 単文を聴くパート1・2のほうが初級者にとってやりやすいのは当然だからである。400点のパート3—32%, パート4—33%という数値は, 4択で正解できる割合の25%という数字とほぼ変わらないという見方もできる。それほど, パート3・4は実際のところ初級者にとってはかなりきびしいパートである。さらに, 400点で61%, 500点で73%であるパート1の問題数が半分になったことで, 初級者がスコアを伸ばすという点からみると, パート2の重要性が以前より高まっているからである。

もう一点は, リニューアルされた新 TOEIC テスト (以下, 新テスト) において, パート3と4では設問が音声化もされ, 設問が3問ずつの設定になるなどのマイナーチェンジがなされたいっぽうで, パート2に関しては問題数はもちろん, 問題形式にもまったく変更がないので, リニューアル以前のテスト (以下, 旧テスト) と新テストを同じ方法で分析できるからである。しかも, ETS が作成した問題に関して, 書籍やパンフレットの形で一般に公開されているものは限られているため, 少しでも多くの問題を分析できることは大きな利点だからである。

それでは、ETS が作成した問題を分析しながら⁽¹⁾、TOEIC 初級者がスコア400点を獲得し、500点に近づけていくためのリスニングのパート2 攻略法を考察してみる。

2. wh 疑問文に注目する

パート2は、質問文に対する3つの応答から最も適切なものを選ぶという問題形式だが、今回分析した182問（旧テスト119問，新テスト63問）の質問文のなかの、100問（旧テスト68問，新テスト32問）がwh 疑問文である。これは、全体の54.9%に当たり、以下yes-no 疑問文が15.4%、yes-no 疑問文の形を借りた依頼・勧誘・提案の文、選択疑問文、付加疑問文がすべて8.2%で続き、そのほかの文（平叙文・命令文）が4.9%となっている。目立つのは、wh 疑問文が旧テストの57.1%から新テストでは50.8%に減り、そのほかの文（平叙文・命令文）が1.7%から11.1%に急増している点である。これは、受検者が疑問文でない質問文のパターンに慣れておく必要があることを示していると同時に、質問文の難易度、すなわちパート2の難易度がやや高くなっていることを示しているといえる。

出題数が減っているとはいうものの、ほぼ半数の問題はwh 疑問文なので、wh 疑問文の質問文に対応していくことがパート2でスコアを伸ばす大きなポイントであることに変わりはない。そこで、TOEIC 初級者のためのパート2 攻略法の大きな一点目は、

wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聞き取れれば正解できる問題がある。

というものである。出だしの疑問詞だけ聞き取れれば正解できる問題は、47問（旧テスト35問，新テスト12問）あり、それはwh 疑問文の質問文全体の47%（旧テスト51.5%、新テスト37.5%）に当たる。具体例を挙げると、

(1) 今回分析した182問に関して述べる際の記号であるが、「旧1-22」は、『TOEIC®公式ガイド&問題集 日本語版』の「ミニ・テスト」(27, スクリプト201-02)の22番の問題であることを示す。以下、「旧2」は同書の「パート別の受験方法」(57), 「旧3」は同書の「サンプル・テスト」(121-23), 「旧4」は同書の「練習テスト」(161, スクリプト236-39), 「旧5」は『TOEIC®公式ガイド&問題集 Vol.2 日本語版』の「ミニ・テスト」(27, スクリプト182), 「旧6」は同書の「Listening 練習問題」(53, スクリプト54-59), 「旧7」は同書の「練習テスト」(149, スクリプト200-05), 「旧8」は「TOEIC® STYLE BOOK」の「TOEIC®テストサンプル問題」(16), 「新1」は『TOEIC®テスト新公式問題集』の「サンプル問題」(13), 「新2」は同書の「練習テスト(1)」(30, スクリプトは『解答・解説編』9-14), 「新3」は同書の「練習テスト(2)」(82, スクリプトは『解答・解説編』91-96), 「新4」は「TOEIC® STYLE BOOK」の「新 TOEIC®テストサンプル問題」(20)をそれぞれ示す。

旧 1—22 質問文	<i>When</i> does Mr. Gustavson predict the construction of the building will be finished? (強調は筆者。以下同様。)
選択肢 A	Out of steel and concrete.
選択肢 B	Twenty million dollar.
選択肢 C	<u>In about a month.</u> (正解を網かけで表す。以下同様。)
新 2—11	<i>How much</i> is a taxi to the airport?
A	Three miles from here.
B	<u>Ten dollars one way.</u>
C	It leaves in an hour.

といった問題であり、旧 1—22のように質問文が長く、文の構造が複雑になっていたとしても、出だしの疑問詞さえ聴き取れば正解できる。

いっぽう、出だしの疑問詞だけが聴けても正解できない問題の代表例は、

旧 3—9	<i>Why</i> don't you let me leave the tip?
A	Because I need you here.
B	It's not too far.
C	<u>I've already taken care of it.</u>
新 2—24	<i>When</i> will the concert start?
A	The symphony is nearly an hour long.
B	<u>As soon as everyone is seated.</u>
C	It was first performed ten years ago.

旧 3—9のように、単純な結び付けが通用しない問題（ここでは、*Why* don't you～? が提案の表現なので、*Why*-*Because* という結び付けでは正解できない。）や、新 2—24のように、疑問詞に対して2つ以上の正答の可能性のある選択肢がある問題（ここでは、*When* will～? まで聴いて初めて、過去の時を表す選択肢Cの可能性が消える。）である。このような問題がほぼ半数の53%を占めるわけであり、さらに、新テストでは、出だしの疑問詞だけ聴き取れば正解できる問題の割合が旧テストとくらべて15%下がっている。新テストでは質問文全体を聴き取る能力がより求められてきていることを覚えておくべきである。

そうはいうものの、出だしの疑問詞だけ聴き取れば正解できる問題がすべての問題に占める割合は、新テストでも19.0%（旧テスト29.4%、平均25.8%）ある。この数字は、前

項でみた目標の正答率の400点—51%の4割を、500点—59%の3割強を占める数字なので、初級者にとっては、「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聴き取れば正解できる問題がある。」という攻略法を知っておくことは有益だといえる。

さて、wh 疑問文の質問文に関して、出だしの疑問詞だけが聴けても正解できない問題がほぼ半数あることを確認したが、問題を分析した結果はっきりした次の小さな攻略法を知っていれば、そのうちのいくつかの問題を正答に変えることができる。それは、

wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢は100%不正解である。

というものである。具体例は、

旧 4—42	<i>How</i> can I get more letterhead and envelopes ?
A	<u>Yes</u> , the mail is picked up three times a day.
B	<u>Contacts Ms. McKay in the stockroom.</u>
C	<u>No</u> , he isn't the head of the department.

であり、ここでは疑問詞 how が「どのようにして」「どんなぐあい」「どういうわけで」のどの意味なのか瞬時の判断が付きにくいいため、通常は How のみを聴き取っても正解にたどり着ける確率は低いといえるが、上の攻略法を用いれば正答を得られる。このパターンの問題が、旧テストでは5問みられる。いっぽう新テストでは、次のようなパターンが多くみられる。

新 2—27	<i>Where</i> should I send the revised version of the contract ?
A	He's probably from the United States.
B	<u>I think my home address would be best.</u>
C	<u>Yes</u> , the last page has five mistakes.
新 3—21	<i>What</i> took you so to get here ?
A	<u>No</u> , it's much shorter.
B	<u>I was stuck in traffic.</u>
C	About three hours.

新 2—27は、疑問詞 where に対して、それぞれの選択肢に場所をあらわす語が含まれているので、新 3—21は、疑問詞 what が実際は why のはたらきをしているので、それぞれ

疑問詞のみを聴き取っても正解にたどり着くのは難しいが、上の攻略法を用いれば、Yes-No で答えている選択肢は確実に除外されるので、難問が50%の確率で正解できる問題に変わることになる。新テストではこのような問題が合計7問ある。このパターンは旧テストにも4問みられ、理論上2問につき1問正解できることになるので、旧テストでは先ほどの5問プラス2問の7問の、新テストでは(3.5→)3問の正答が増えることになる。

これを、「出だしの疑問詞だけ聴き取れば正解できる問題」に加えると、旧テストでは42問(35問+7問)、新テストでは15問(12問+3問)となり、すべての問題に占める割合は旧テストで6ポイント増の35.3%、新テストで2ポイント増の23.8%(平均31.3%)となる。そうすると、新テストの23.8%という数字でも、目標の正答率の400点—51%のほぼ5割を、500点—59%の4割を占めるものになる。

さて、「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聴き取れば正解できる問題がある。」に「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢は100%不正解である。」を組み合わせると、上でみた数値まで伸ばせることはわかったが、51%、59%にはまだ遠い。しかし、次の攻略法を組み合わせることによって、この数値に迫いつき、追い越すことができる。

3. 「ひっかけ選択肢」に注目する

今回、リスニング・パート2を182問分析したので、選択肢に関してはその3倍の546を分析したことになる。そのなかで、質問文で用いられた「内容語」(その語自体が具体的な意味内容を持つ語で、動詞、名詞、形容詞、副詞などがその中心である。)と音声面で関連のある語が含まれる選択肢は182個(旧テスト107個、新テスト75個)あった。しかし、そのうち正解の選択肢はわずか13個(旧テスト6個、新テスト7個)しかなかった。つまり、このパターンの選択肢のうち、実に92.9%(旧テスト94.4%、新テスト90.7%)が不正解の選択肢(以下、本論では「ひっかけ選択肢」とよぶ)なのである。これこそが、TOEIC初級者のためのパート2 攻略法の大きな二点目となる、

質問文の「内容語」と音声面で関連のある語を含む選択肢は、90%が「ひっかけ選択肢」である。

なのである。具体例を挙げると、

旧 4—44	You're the <u>new assistant</u> to Mr. Lin, aren't you?
A	No, I don't need <u>assistance</u> .
B	<u>No, I work for Ms. Wong.</u>
C	Yes, I <u>knew</u> about that.
旧 7—39	Don't <u>leave town</u> without letting me <u>know</u> .
A	<u>I'll be sure to give you a call.</u>
B	I <u>know</u> that city very well.
C	He <u>lives</u> outside of <u>town</u> .
新 2—23	I found the documents that were <u>missing</u> from the <u>folder</u> .
A	I will <u>hold a space</u> for <u>Ms. Smith</u> .
B	Yes, the <u>folders</u> are <u>missing</u> .
C	<u>Please bring them with you to the meeting.</u>
新 3—29	Has Dr. Robinson's office called you with the <u>estimate</u> for your dental <u>work</u> ?
A	Our <u>estimated</u> arrival is 4P.M.
B	Yes, I'm <u>working</u> hard this week.
C	<u>No, they're out on vacation.</u>

であり、旧 4—44では派生語と同音異義語が、旧 7—39では同一語と発音の似た語 (live-leave) が、新 2—23でも同一語と発音の似た語 (folder-hold a, missing-Ms. Smith) が、新 3—29では品詞ちがいの同一語が「ひっかけ選択肢」として用いられている。特に、旧 7—39と新 2—23では、質問文が疑問文ではなく、平叙文・命令文といった「そのほかの文」なので、初級者の多くはとまどいを感じるであろうが、この攻略法を知っていれば、正解にたどり着くことができる。

さて、上でみたように、「内容語」と音声面の関連語が含まれる選択肢に占めるひっかけ選択肢の割合は、新テストでは90.7%なので、旧テストの94.4%とくらべると数値が下がっているように見える。しかし、分析した全体の不正解の選択肢 (旧テスト238個、新テスト126個) に対する「ひっかけ選択肢」の割合をみると、旧テストでは42.4%、新テストでは54.0% (平均46.4%) となり、新テストでは逆に数値が大きく上がっている。これは、ひっかけ選択肢が不正解の選択肢としてますます用いられるようになっていくことを明らかに示している。したがって、初級者に限らず、「質問文の『内容語』と音声面で関連のある語を含む選択肢は、90%が『ひっかけ選択肢』である。」という攻略法を知って

おくことは、大いに役立つのである。

それでは、この攻略法を用いると、実際のところどれぐらいの問題に正解することができるのだろうか。まず、先ほど引用した4例すべてが当てはまるパターンなのだが、旧テストでは119問中23問 (19.3%)、新テストでは実に63問中19問 (30.2%) において、正解以外の2つの選択肢に「ひっかけ選択肢」が含まれている。つまり、42問に正解することができ、これは全182問のおよそ4分の1の23.1%に当たる。

ここで、前項までの数字にこの数字を加えてみる。実際は、旧テストの23問中5問は、前項でみた「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけで正解できる問題」や「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢を外すだけで正解できる問題」と重なっているため、純粋な『ひっかけ選択肢』だけで正解できる問題は18問である。いっぽう、新テストでは19問すべてが、純粋な「ひっかけ選択肢問題」である。したがって、旧テストでは、「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけで正解できる問題」と「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢を外すだけで正解できる問題」の42問に、18問が加わり60問に、新テストでは、15問に19問が加わり34問になる。そして、全問題に占める割合は、旧テストでは15ポイント増の50.4%、新テストでは実に30ポイント増の54.0% (平均51.6%) まで急上昇する結果となる。ここでついに、目標の正答率の400点—51%を達成し、500点—59%の9割弱まで届く数字になる。

さらに、旧テストでは119問中49問 (41.2%)、新テストでは63問中21問 (33.3%) で、不正解の1つの選択肢だけに「ひっかけ選択肢」が含まれている。つまり、正解できる可能性が50%ある問題が、70問存在することになり、これは全問題の38.5%を占める。いくつか例を挙げると、

旧 5—22	Is production <u>higher</u> this month ?
A	<u>It's about the same as before.</u>
B	No, they <u>hired</u> one last month.
C	It's on sale next week.
新 3—14	The new <u>marketing</u> director is arriving from <u>Singapore</u> tomorrow.
A	Yes, it's south of the airport.
B	The <u>markets</u> in <u>Singapore</u> are doing well.
C	<u>I'm looking forward to meeting him.</u>

旧 2—4	Who's going to be in charge of <u>processing</u> paychecks now ?
A	<u>Yes</u> , I have a credit card.
B	<u>The assistant accountant.</u>
C	It's a complicated <u>process</u> .
新 3—13	When does the meeting <u>start</u> ?
A	The room next door.
B	It'll <u>start</u> with a presentation.
C	<u>Right after lunch.</u>

であり、なかでも新 3—14は質問文が疑問文ではなく平叙文なので、初級者の多くは難しく感じるであろうが、この攻略法を知っていれば選択肢 B を確実に除外することができる。ここでも実際は、旧テストの49問中19問、新テストの21問中7問は、ほかの2つの攻略法で正解できる問題と重なっている。その具体例は、上の4例のなかの後半の2例であり、この2問は「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけで正解できる問題」である。特に旧 2—4 は、Who's を Whose と思ったとしても、選択肢 A は「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢」、C は「ひっかけ選択肢」なので、B を選ぶことができる。このようなほかの攻略法と重なっている問題を除くと、純粋な「『ひっかけ選択肢』だけで正解できる可能性が50%ある問題」は、旧テストの30問と新テストの14問の合計44問となる。理論上2問につき1問正解できることになるので、旧テストでは、これまでの60問に30問の半分の15問が加わり75問に、新テストでは、34問に7問が加わり41問になる。さらに新テストでは、

新 2—22	How did your lecture go <u>yesterday</u> ?
A	He was out <u>yesterday</u> .
B	<u>It couldn't have been better.</u>
C	<u>Yes</u> , I'm ready.

のように、初級者にとって出だしの疑問詞だけでは正答にたどり着ける可能性が低い問題でも、「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢」と組み合わせることで正解できる問題が1問あるので、合計42問になる。

以上の数字から、本論で考察してきた、理論上正解可能な問題が全問題に占める最終的なパーセンテージは、旧テストでも新テストでも約12ポイント増のそれぞれ63.0%、66.7% (平均64.3%) となる。この数値は、目標の正答率の400点—51%、500点—59%だ

けでなく、「はじめに」の項で指摘した、問題形式のリニューアルにともなう、正答率の5%上乗せの数値である400点—56%、500点—64%も見事にクリアするものとなっている。つまり、本論で述べた攻略法を実践すれば、TOEIC 初級者でもリスニングのパート2において500点を獲得できる可能性がある正答率を出すことが、理論上十分に可能なのである。

さて、「ひっかけ選択肢」の効用に関して、もう少し論じておきたい。前項で、「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聴き取れば正解できる問題がある。」という攻略法を扱い、質問文が wh 疑問文である100問に関して47問正解できることを検証した。ところが、この数値は逆にみれば、せっかく出だしの疑問詞を聴けてもできない問題が半分あることになり、この攻略法にとっては多少抵抗感のある数字かもしれない。しかし、前項で同時に、「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢は100%不正解である。」という攻略法を使えば、全質問文の54.9%を占める100問の wh 疑問文の残り53問中10問に正解できることがわかった。さらに、この項の攻略法である「ひっかけ選択肢」の側面から分析すれば、まず、『「ひっかけ選択肢」だけで100%正解できる問題』には、「出だしの疑問詞だけが聴けても正解できない問題」を正答に変えることができる問題が、42問中11問含まれている。以下が具体例である。

旧 1—29	Who did <u>Mrs. Martelli</u> pick to fill the <u>position</u> ?
A	A young intern from the marketing.
B	<u>Mrs. Martelli</u> met with us after all.
C	She wanted a <u>position</u> with more benefits.
新 2—28	How do you <u>like</u> the new filing <u>system</u> ?
A	It's quite efficient, actually.
B	I'd <u>like</u> to make some copies.
C	I borrowed them from my <u>sister</u> .

旧 1—29は3つの選択肢すべてに人を表す語句があるという点で、新 2—28は数種類の意味がある疑問詞 how の問題という点で、初級者にとっては、出だしの疑問詞を聴けたとしても正解できる可能性が低い難問であるが、「ひっかけ選択肢」に注目すれば、正解することができる。

次に、『「ひっかけ選択肢」だけで正解できる可能性が50%ある問題』においても、

旧 6—28	What time does the <u>play</u> begin ?
A	This is the first play I've <u>played</u> .
B	I'll call the theater to find out.
C	I couldn't really hear the music.
新 2—28	Who's in <u>charge</u> of making the director's <u>travel</u> arrangements ?
A	That's handled by his secretary.
B	Use the corporate credit card to pay.
C	The <u>travel</u> department called about the <u>charges</u> .

のように、旧テストで8問、新テストで4問の合計12問が、「出だしの疑問詞だけが聴けても正解できない問題」のパターンになっている。旧 6—28は What time～? に対してはっきりとした時刻を答えている選択肢がないという点で、新 2—28は質問文が長い上に、his secretary が文頭に来ていないという点で、初級者にはきびしい問題であるが、「ひっかけ選択肢」に注目すれば、旧 6—28では選択肢Aを、新 2—28ではCを除外することができ、正答の可能性が50%の問題に変わる。このようにして、このパターンの12問中6問を理論上正答に変えることができる。

このように、「ひっかけ選択肢」を活用すれば、17問が正解できる問題に変わることになり、「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢は100%不正解である。」でみた10問と合わせて、wh 疑問文の質問文において27問の正解の上乗せができることになる。そうすると、「出だしの疑問詞だけ聴き取れば正解できる」47問と合わせて74問に、すなわち wh 疑問文の問題の4分の3に正解できる計算となる。この74問という数字は、全問題数の40.7%にも当たる数字なので、質問文が wh 疑問文であるかどうかを知ることは大切な要素となる。そして、このことは、質問文の出だしを注意して聞くというパート2での大切な要素につながることはもちろんのこと、結果として、「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聴き取れば正解できる問題がある。」という一点目の大きな攻略法を大いに活用できる流れとなるのである。

以上のように、「質問文の『内容語』と音声面で関連のある語を含む選択肢は、90%が『ひっかけ選択肢』である。」という攻略法は、それだけで多くの問題に正解できるだけでなく、ほかの攻略法の活用にもつながるという点で、大いに注目すべきものである。この項の序盤でみた、「新テストでは『ひっかけ選択肢』が不正解の選択肢としてますます用いられるようになっていく」ということをここでもう一度述べ、この攻略法を知っておくことは、新テストにおいて TOEIC 初級者に限らず大いに役立つであろうことを強調する

ことで、この項を終えることにする。

4. お わ り に

本論では、「wh 疑問文の出だしの疑問詞だけでも聴き取れば正解できる問題がある。」と「質問文の『内容語』と音声面で関連のある語を含む選択肢は、90%が『ひっかけ選択肢』である。」という2つの大きな攻略法と、それに付随する「wh 疑問文に対して Yes/No で答えている選択肢は100%不正解である。」という攻略法が、リスニングのパート2において大いに役立つことを考証してきた。もちろん、考証してきた数値はあくまでも理論上の数値であり、このパートにおいては、質問文全体をしっかりと聴いたうえで答えを選ぶことができなければならないこと、また、実際にそうしなければ、600点・700点に達することは不可能であることは明らかなことである。しかし、そのいっぽうで、TOEICが特殊なテストであることから、本論でみてきたものを含めた攻略法を身に付けていくこともまた重要なことであり、TOEIC 初級者にとってはそれがなおさらのことであることもはっきりとしているのである。このように考えると、リスニングのパート2に対しては、質問文全体をしっかりと聴き取る練習をしながら、困った場合に利用するためにいくつかの攻略法を身に付けておくというのが、本当の意味での攻略法になるのであろう。

参 考 文 献

- [1] Saegusa, Yukio. "A Practical Criterion for Measuring English Proficiency." *Waseda Journal of Human Sciences* (Faculty of Human Sciences, Waseda University) 3.1(1990): 133-45.
- [2] 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編. 『TOEIC®公式ガイド & 問題集 日本語版』東京：国際コミュニケーションズ・スクール, 2000.
- [3] ——. 『TOEIC®公式ガイド & 問題集 Vol.2 日本語版』東京：国際コミュニケーションズ・スクール, 2002.
- [4] ——. 『TOEIC®テスト新公式問題集』東京：国際コミュニケーションズ・スクール, 2005.
- [5] 「TOEIC®テストDATA & ANALYSIS 2004」東京：国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会, 2005.
- [6] 「TOEIC® STYLE BOOK」東京：国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会, 2006.